

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 19 日

1. 職名・氏名 教授・堀田 学

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 農業経済学、京都大学、授与年 1998

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 農業経済学（経済学部）・農業経営論（生物資源学部），2・3年
②内容・ねらい 農業経済学の基礎を学習することを目的とした．その基礎となるミクロ経済学・経営学を解説した上で，農業・農業経営の特質を理解する．また学術的・理論的理解にとどまらず，現実の実情を理解することを狙いとした．
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (a)2学部の学生を対象としているため，毎週，講師は永平寺キャンパス交互で講義・配信し，対面と遠隔講義のハイブリット方式で授業した． (b)通常の講義に加えて，外部講師を招いて現場の実情の理解を深める工夫をした． (外部講師；JA たけふ営農指導員 1 名，丹南農業者クラブ 2 名，嶺南農林事務所 1 名) 【ゲストスピーカー 4 人】
内容 ① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 農業生産・流通政策論（経済学部）・農業市場論（生物資源），2・3年
② 内容・ねらい 農産物流通の理論的学習に加え，実態を理解することを目的とした．理論的にはマーケティング論，流通論の基礎を身につけ，実態理解には現場の実情をすることを目的とした
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (a)2学部の学生を対象としているため，毎週，講師は永平寺キャンパス交互で講義・配信し，対面と遠隔講義のハイブリット方式で授業した． (b)通常の講義に加えて，外部講師を招いて現場の実情の理解を深める工夫をした．
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 農業生産・流通政策論（経済学部）・農業市場論（生物資源学部），2・3年
② 内容・ねらい 農産物流通の理論的学習に加え，実態を理解することを目的とした．理論的にはマーケティング論，流通論の基礎を身につけ，実態理解には現場の実情をすることを目的とした
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (a)2学部の学生を対象としているため，毎週，講師は永平寺キャンパス交互で講義・配信し，対面と遠隔講義のハイブリット方式で授業した． (b)通常の講義に加えて，外部講師を招いて現場の実情の理解を深める工夫をした． (外部講師；東京都中央卸売市場大田市場東京青果 2 名，広島県 6 次産業化プランナー 1 名，城南地方卸売市場 1 名，元モンゴル大使館公邸料理人 1 名) 【ゲストスピーカー 5 人】

(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 0 本】
② 学術論文（査読あり）	【 0 本】
③ その他論文（査読なし）	【 0 本】
④ 学会発表等 ・マーケティングおよびブランド形成と ブドウ生産・販売の方向 愛東ぶどう生産組合 2025 年 3 月 6 日 ・食料品の流通の動向と 小売業の方向性 ハニー会 2025 年 2 月 4 日 ・6次産業化の推進と福井県の対応 , ふくい技術士交流会 2025 年 7 月 26 日 ・1 杯のごはんから見える社会のしくみ , 福井県 Feel Fukui' s Fun 進路探求ワークショップ 2025 年 10 月 13 日 ・マーケティング講座 産地強化に必要なマネジメントの視点と基礎知識 JA 愛知中央会営農専門員養成研修 2025 年 11 月 7 日	【 5 件】
⑤ その他の公表実績 ブックレビュー木村彰利著『流通環境の変化と青果物仲卸業者』（筑波書房） 『地域農業と農協』	【 1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等
地域農林経済学会 常任理事 日本農業経済学会 常務理事 農業経営学会 地域理事 農業開発研修センター参与 農業開発研修センター令和 7 年度農産物流通研究会でコメンテーターを担った。

5. 地域・社会貢献活動

福井県地域資源活用・地域連携サポート委員会委員長 福井市中央卸売市場運営委員会委員長 福井市中央卸売市場取引委員会委員長

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
大学入試説明会参加, 大学祭参加
(4)その他、自発的活動など